

●優秀賞

社会の変化に主体的に対応 できる子どもの育成を めざした家庭科

山口県下松市立下松小学校 あさむらよしえ
浅村芳枝



1. はじめに

地球温暖化による影響と考えられる自然界の大きな変化は、私たちのくらし方が原因であると言われているが、このことは世界の環境と私たちの生活とのつながりの深さを感じさせる。

このように、環境問題はもはや誰にとっても人ごとではないはずではあるが、例えば知識としてそのことを知ってはいても、解決の必要性を感じていなければ、自分のくらし方をふり返り、環境にやさしい生活をしようと行動することは難しい。また、現代はインターネット等によって世界中の情報に触れることが可能となり、携帯電話や様々なカードが普及するなど、生活の中で多くの情報化社会の恩恵を受けるようになった。しかし、私たちはその便利さを享受するだけでなく、同時に多くの問題をも抱えることとなった。今、私たちを取り巻く社会は、地球規模で起こっている様々な環境問題や急速な情報社会の発達などによって、これまでに例を見ないくらい急速に大きく変化している。

小学校の家庭科では、「衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活への関心を高めるとともに日常生活に必要な基礎的な知識と技能を身につけ、家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる」ことを目標としている。しかし、家庭科は学校で学習したことを実際に生活に生かすことをねらっている教科であるから、私はこの目標だけに学

習を終わらせるのではなく、今後も変化し続ける社会に生きる子どもたちに、そのような社会に必要な力を家庭科の学習を通して付けていきたいと考えた。

変化を続けるこれからの社会に必要とされるであろう力は、「地球社会の一員として正しく判断し、行動することのできる力」である。そこで、「自分」から家庭、社会、世界へと広く視野をもたせることによって、子どもに地球社会の中の一員であるということを自覚させたいと考えた。判断し、行動する時の規準は、「自分」だけではないということである。

そのため、従来の家庭科の目標に加え、「家庭生活が社会や世界とつながっていることを認識することができる。」「地球社会の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる。」こともねらって学習を進めることにした。しかし、そのねらいを達成することは家庭科の学習だけでは難しい。そこで、より広い視野から課題を追求し、実践することができるようするために、家庭科と総合的な学習の時間とを関連付けた学習を仕組むことにし、平成14年度より実践に取り組んできた。

2. 関連付けについての考え方

家庭科と他教科等とをいつ、どのように関連させるのかについては、次のように考えた。

家庭科の学習前・・・・

意欲付け（追求意欲・実践意欲）を図る

家庭科の学習途中・・・・

課題を見いだす力を付ける

家庭科の学習後・・・・

家庭における実践化を図る

なお、実践に際しては次の2点に留意して取り組みを進めた。

A：年間指導計画の編成の工夫

それぞれに共通な内容を含む題材及び単元を拾い出し、年間指導計画を編成した。

B：それぞれを生かす題材・単元設定の工夫

それぞれのねらいは異なっても、子どもがより興味や必然性をもって他方の学習を進めることができるようにするめに、それぞれで身に付けた考え方、知識、技能などの力を関連によって生かすことを考慮した題材・単元の設定をした。

3. 総合的な学習の時間との関連を図った実践

特に家庭科と教材の内容が深い関わりをもつものとして、総合的な学習の時間があげられる。実践3年目の平成16年度には、総合的な学習の時間と家庭科とを関連させた3つの関連した取組を行った。いずれも環境や世界との結びつきを取り上げた内容となっている。（図1）

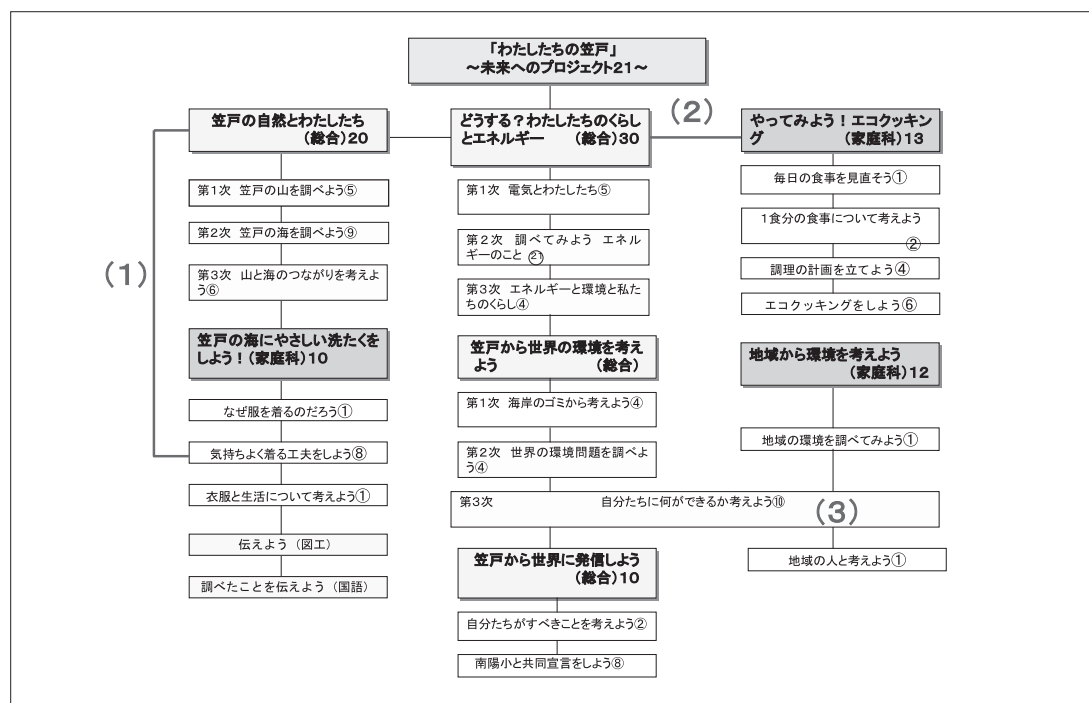
（1）「笠戸の海にやさしい洗たくをしよう」での関連付け（5・6年複式）

①総合的な学習の時間「笠戸の自然とわたしたち」

山や海の観察を通して、山と海のつながりを考えていった。特に、水を中心としたつながりに着目していった。

②家庭科「笠戸の海にやさしい洗たくをしよう」

総合的な学習の時間での気づきを生かし、家庭科では排水の汚れを少なくする環境にやさしい洗濯の仕方を考えることにした。一人一人が課題を立て、実験を行ったが、洗濯の仕方を工夫することで、排水の汚れを減らすことができることがわかった。



● 図1／総合的な学習の時間との関連

課題

A 児・・・

洗剤の量を変えても汚れは落ちるか（2倍・標準・3分の2・3分の1）

B 児・・・

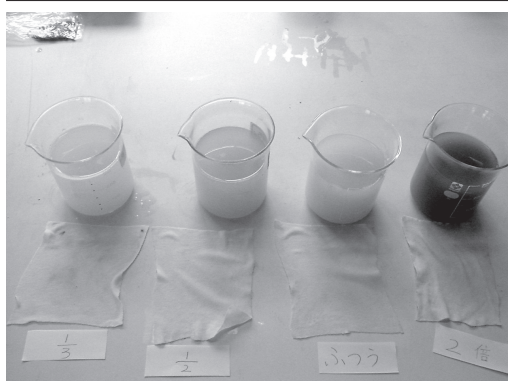
標準使用量の2分の1でどんな汚れが落ちるか

C 児・・・

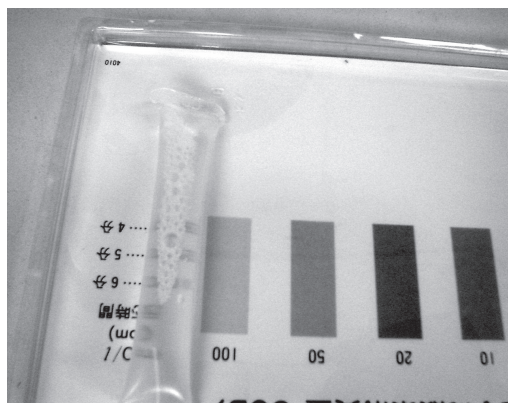
洗剤の量を変えても汚れは落ちるか（2倍・標準・2分の1・3分の1）

D 児・・・

石けんと合成洗剤の排水の汚れ



●写真1 / C児の実験



●写真2 / D児の実験

(2)「やってみよう！エコクッキング」での 関連付け（5・6年複式）

①総合的な学習の時間「どうする？わたしたちの くらしとエネルギー」

島の電気はどこから来ているのかを調べていった。身の回りの電化製品調べや学校での停電体験後に市内の発電所の見学に行き、限りあるエネルギーを大切にするために自分たちにできることは何か考えた。

②家庭科「やってみよう！エコクッキング」

エネルギーを大切にするために実際に自分たちにできることとして、家庭科ではごみ・水・エネルギーの視点から環境にやさしい調理について調べた（写真3・4）。調理実習では、調べたことを生かして調理や後片付けをした。家庭科での学習によって、調べてわかったことを家庭生活に生かそうとする気持ちをもたせることができた。

課題

A 児・・・

洗い方で排水を少なくする（洗剤の濃さと汚れの落ち方の違い）

B 児・・・

切り方による調理時間の変化（野菜の大きさとゆで時間の違い）

C 児・・・

ガスの使用量を減らす（炒める時に入れる物の順番と調理時間の違い）

D 児・・・

排水の汚れの量を減らす（油汚れの拭き取りによる排水の汚れの量の減少）

(3)「地域から環境を考えよう」での関連付け（5・6年複式）

総合的な学習の時間に地域と世界の環境とのつながりと考えた後、自分たちにできることを考え、実践した。この時、家庭科と科学的に考え、地域の人にごみのリサイクルについて呼びかける展示物づくりを行った。地域の人を意識した活動をする事ができてよかった。

(4) 総合的な学習の時間との関連による成果

それまでは、総合的な学習の時間に環境につ



●写真3 / B児の実験



●写真4 / D児の実験

いての学習を進めても、なかなか自分に関係のあることとして子どもにとらえさせることができなかった。環境の問題は一人一人のライフスタイル

や考え方に関係しているが、考えたことが実践できなければ意味がない。だが、総合的な学習の時間の学習内容と家庭科の学習内容とを関連付けて学習を進めたことで、環境と家庭生活についての子どもの意識を結び付け、家庭での実践化へと一歩近づけることができた。

4. 社会科との関連を図った実践

総合的な学習の時間との関連付けが有効であることはわかったが、現任校に転勤した17年度は、学校のカリキュラムの都合によって総合的な学習の時間との関連を図ることが難しかった。そこで、総合的な学習の時間以外との関連のあり方についても研究を進めることにした。

家庭科と関連付けることができるものには、総合的な学習の時間の他に、国語、社会、理科、道徳、特別活動などがある。この中で家庭科との共通点が多いのは、5年の社会である(表1)。中でも特に食料生産、情報、国土と環境の領域は、関連が深い。食料生産では、食料がつくられて私たちのところに届くまでの様子や工夫、日本の食の問題点を知ることができる。情報では、消費者として考える力をつけることができる。国土と環境では、私たちの生活のあり方について考えさせることができる。17年度から19年度には、この3つの領域を家庭科と関連付けて学習を進めることにした。

●表1 / 家庭科と関連のある教科と単元・題材

	国 語	社 会	理 科	保 健	道 徳
5 年	「森林のおくりもの」	「米づくりのさかんな庄内平野」 「水産業の盛んな枕崎市」 「これからの食料生産とわたしたち」 「工業生産と貿易」 「情報と社会」 「わたしたちの生活と環境」	「花から実へ」		「漂流ゴミのゆくえ」 「はじめてのアンカー」
6 年			「動物のからだのはたらき」 「生き物のくらしとかんきょう」 「人とかんきょう」	「病気の予防」	「地球があぶない」 「ペエスケ」 「わたしの父さん」 「母のけしょう」

【社会科】「情報と社会」（6時間）

- 第1次 くらしの中の情報①
- 第2次 コマーシャルのひみつ①
- 第3次 テレビや新聞と情報①
- 第4次 情報を生かす①
- 第5次 コンピュータと情報社会①
- 第6次 情報の伝え方①

【家庭科】品物の買い方を考えよう（4時間）

- 小单元1 生活の中のお金①
- 小单元2 計画的に買う工夫①
- 小单元3 買い物の工夫②

（1）「品物の買い方を考えよう」での 関連付け（17年度 5年）

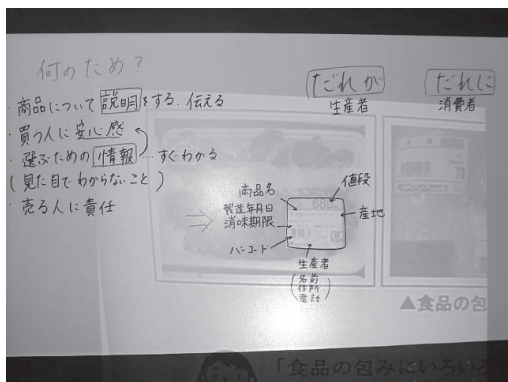
社会科でのねらいは、情報がわたしたちの生活や産業の中でどのような働きをしているのかを調べ、情報を収集・分類し、活用しようとする事である。一方、家庭科でのねらいは、商品の情報を集め、目的に合った品物の選び方や買い方ができるようになる事である。

①社会科「情報と社会」

身の回りの情報にはどんなものがあるかあげていった後、身近な情報であるコマーシャルを調べ、自分たちの生活とどのような関係があるか考えていった。ここでは、情報の形態によってどのような特徴があるのか、それらの情報がどのような目的で発信されているのかを見ていき、品物についている基本的な表示の見方を理解し、自分の目的にあった買い物をしようとする家庭科の学習へとつながるようにした。

②家庭科「品物の買い方を考えよう」

食品のパックについているシールの情報を読



●写真5 シールの情報の読み取り

み取ったり（写真5）、食品の包装についているQRコードを読み取ったりした。それらから、食品の値段や重さはもちろんのこと、消費期限、産地や生産者、育て方など消費者の求めるいろいろな情報が読み取れることを調べていった。

この学習から、知ろうとすれば身の回りにはたくさん情報があることや、消費者にはそれを正しく読み取る力が必要であることがわかった。

（2）「旬のおいしさ、いただきます！」での 関連付け（平成19年度 5年）

社会科の「これからの食料生産」のねらいは、日本の農業問題、環境に優しい食料生産が進められつつあること、食料生産が自然環境に影響を与えていること、日本の食料の自給率の問題などについて考えさせることである。家庭科の「旬のおいしさ、いただきます！」では、調理の手順を知り、食品に合った「ゆでる」・「いためる」の調理の仕方を工夫すること、食品の体内でのはたらきが分かり、いろいろな食品を組み合わせることで食べることの必要性について理解させることをねらっている。

①社会科「これからの食料生産」

子どもがよく利用するスーパーのチラシ調べから、みんなが食べている食べ物はどこから来ているのか調べていった。すると、国内をはじめ、野菜はニュージーランド、アメリカ、チリ、メキシコなどから、肉はオーストラリア、中国、アメリカ、ブラジルから、魚類はノルウェー、チリなどから来ていることがわかった。

そこで、食料輸入に賛成か、反対かについて、調べ学習をしながら考えていった。多くの子ども

【社会科】「これからの食料生産」(11 時間)

- 第1次 下松にきている食料はどこから①
 第2次 食料輸入に賛成? 反対? ③
 第3次 日本の農家の姿①
 第4次 食料生産と国土①
 第5次 これからの日本の農業について考えよう⑤

【家庭科】「旬のおいしさ、いただきます!」

(13 時間)

- 小題材1 1日の食事を調べよう②
 小題材2 野菜の旬について調べよう①
 小題材3 旬の野菜の調理計画を立てよう④
 小題材4 調理をしよう④
 小題材5 なぜ食べるのか考えよう②

が地域のスーパーに行き、お客さんや店員の考えをインタビューして調べて来た。また、家族にインタビューした子どもや、どんなものが輸入されているのかインターネットで調べた子どももいた。調べたことをクラスで出し合い、NHK「ど〜する地球のあした」のホームページ上の交流掲示板を使って他県の友達に調べたことを伝えたり、意見を聞いたりした。

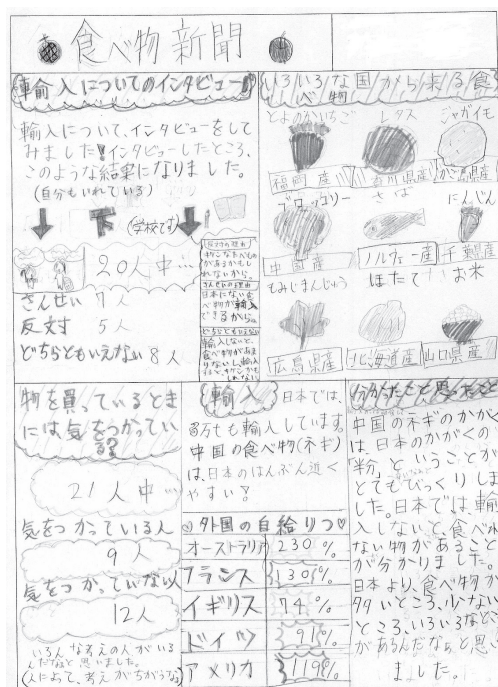
【H 児と T 児が掲示板に書いた意見】

日本産は 40%しかないの、とても少ないです。スーパーで売っている食料は3分の1も余るので、外国産はあまり輸入しても日本の農家にとっては自分達のつくった食料が余ってしまうことになります。それはかわいそうだなと思いました。私たちは出来ることはやっていきたいなと思いました。

また、「今日のニュースで、中国の野菜のことを言っていたよ。」「中国からのウナギの輸入がストップするんだって。」と、遠いところの話ではなく、自分たちの生活につながっている問題として、新聞を見たり、ニュースを聞いたりすることができるようになった子どもがいた。「お母さんは、外国の野菜は安いけど買わないって言っていたよ。国産のものは安心できるからなんだね。」と、家庭の食材の選び方に目を向けるようになった子供もいる。学習の最後に、各自が考えたことを新聞にまとめた(図2)。

私たちが少しでも考えれば、少しでも協力できるんじゃないかと思いました。食料、それから環境も大切にしていこうと思います。
 (S児のまとめの新聞より)

学習の最後まで、輸入についてどちらが正解なのかクラスで答えは出せなかった。しかし、安全性、値段、産地、鮮度でお客さんは選んでいるということ、輸入を増やすと日本の食料生産が減ること、輸入をしなければ食べ物が足りなくなってしまうこと、輸入までして手に入れた食



●図2 / K 児のまとめの新聞

べ物の3分の1を日本では捨てていること、世界の中には飢えのために死んでしまう人もいることなどに気付くことができた。このことから、世界と私たちの台所とが深くつながっていることがわかった。

②家庭科「旬のおいしさ、いただきます!」

社会科の学習では、「自分にできることはやっていきたい。」という考えをもつことができるようになったが、実際にはまだ正しいと考えていることを述べているだけの段階であり、本当に自分が行動すべきこととして感じているのではない。

そこで、子どもにそのことを自分のこととして考え、家庭で実践できる力をつけたいと考え、「調理の手順を知り、食品に合ったゆでる・いためるの調理の仕方を工夫すること、食品の体内でのはたらきが分かり、いろいろな食品を組み合わせることで食べることの必要性について理解させる」という目標以外に、旬の食べ物のよさに気づかせることをねらった「旬のおいしさ、いただきます!」という題材を設定した。好き嫌いが多く、給食の残食が多い子どもたちに、食べ物をもっと大切に食べて欲しいという願いも込めた。

店では1年中いろいろな食品が並んでおり、旬を意識することは大人でも難しくなっている。そこで、まず校区内の畑で撮った野菜の写真を見ながら、どんな野菜が下松の今の旬の野菜なのか考え、旬の野菜を食べることがなぜいいのか話し合った。この時、子どもからは予想以上に多くの答えが出て、社会での学習が生きていることを感じた(図3)。

次に、旬の野菜を使った料理をつくる計画を立てた。10月上旬に調理実習をするので、秋が旬の野菜を使うことにした。献立を旬の野菜のゆでサラダと決め、旬の野菜の中から班で話し合っ

社会科「これからの食料生産」

■子どもがインタビューで知った 消費者が食品を選ぶ時にみていること

- ・食べ物の安全性
- ・産地
- ・鮮度
- ・値段

■子どもが気づいた食料輸入の問題点

- ・日本の食料生産が減る
- ・食べ物が足りなくなってしまう
- ・輸入までして手に入れた食べ物の3分の1を捨てている

自分にできることはやっていきたい

自分のこととして実践できる力を育てる

家庭科「旬のおいしさ、いただきます!」

■子どもが考えた旬の野菜を食べるよさ

- ・季節感
- ・体にいい
- ・農薬が少ない
- ・安い
- ・栄養がある
- ・鮮度
- ・エネルギー(燃料)

●図3／関連付けによる子どもの気づき

理は残さず「おいしい。」と食べていた。なお、調理実習前に材料を買った時の感想として、旬の野菜は店の中でも品数が多く値段も安かったことを教師から話した。

(3) 社会科との関連による成果

学習内容が決まっているので家庭科と関連させることのできる単元は限られるが、学校によってカリキュラムの異なる総合的な学習の時間とは違って、関連を意識した学習の計画が立てやすいということがわかった。社会科では、食料生産や工業生産、情報、国土と環境から世界や日本各地との結びつきを考えていくので、家庭生活と社会とのつながりを感じ取らせることができた。また、家庭科と関連付けることで、社会科の学習でもつようになった問題意識を、自分のこととして考え、実践させることができた。

5. 成果と課題

家庭科と総合的な学習の時間や他の教科等とを関連付けることによって、子どもに自分の生活

と世界や環境とのつながりを意識させ、自分なりの考えをもたせることができた。しかし、そこから行動することのできる力を付けていくためには、その必要性を感じるまで友達と話し合ったり、自分の考えを表現したりさせるなどの活動がもっと必要ではなかったかと思う。現在は、社会科「わたしたちの生活と環境」・総合的な学習の時間「下松市の環境を守る人」・家庭科「不用になったものを生かそう」の3つを関連させたごみについての学習を展開しているところであるが、環境を守るのは私たち一人一人であるという意識をもたせ、「問題解決のために主体的に考え、自分の問題として実践することのできる力」を付けたいと考えている。

また、環境問題や情報化については刻々と状況が変わっているので、今後も常に新しい情報を得るための努力をする必要があると感じている。

6. おわりに

今の家庭科教育に求められているものは何なのか考え、これからも子どもの本当の力となる家庭科をめざし、他教科等との関連付けによる効果をさらに明らかにしていきたい。そして、子どもの実態や興味・関心、学校の実情に応じて関連付けのあり方をいろいろと工夫できるように今後もさらに深く研究していきたい。